## ● 読書感想文コンクール 中学生の部 ●

## 入選

## 渡邊 ひかる(わたなべ ひかる) 楢原中 2年生

作品名:諦めを知らない男、メロス

図書:走れメロス

「私は、信頼に報いなければならぬ。いまはただその一事だ。走れ!メロス。」この名詞は、メロスが心の中で放った一言です。このときメロスは、自分の身代わりで人質になってくれた親友であるセリヌンティウスの所へ戻ろうとするも、数々の困難に立ち向かい、心身共にボロボロで、「もうどうでもいい」という気持ちになりかけていました。しかし、セリヌンティウスが信じて待っている、という二人の絆に押され、メロスは再び立ち上がり、走り続けたのです。

このたった一つの「友情」というもので、人をここまで動かせるという事に、私はすごく感動しました。上辺だけの友情では、最後に二人で抱き合い、二人で嬉し泣きなんて出来ません。深くお互いを信じ合っているから、苦痛な状況でも二人は諦めず信じる事を貫き通せたんだなと思います。対して私はどうだろう。そう考えた時に、小学校の頃に起きた事を思い出しました。

私は、小学校の時、ある友達に一つの嘘をついてしまった時がありました。でも、正直に言ったらきっとその友達はがっかりしてしまうような事だったので、傷付けるのは嫌だから、という理由で嘘を言いました。しかし、その嘘を言った数日後に、とある出来事がキッカケで、その嘘がその友達にバレてしまいました。「傷付けるのが嫌だった」とその友達に言ったら、「嘘吐かれる方が倍くらい傷付くよ」友達はそう言いながら、すごくがっかりしていました。良かれと思ってとった行動が、逆に友達を傷付けることとなってしまって、私はひどく後悔していました。その後、うまく話し合ったりして、許してもらう事ができました。

この本を読んで、私はこの出来事を思い返しながらしばらく考えていました。考えた事が、「自分は友達の事を信じる心が足りなかったのではないか」という事です。「傷付くかもしれない」なんて、言ってみなければ分からないのに、嘘を吐くという、心から信用している人には絶対にしないような事をしてしまって、自分自身にすごくがっかりしました。何より、自分を信じてくれていた友達に対しての申し訳

ない気持ちでいっぱいでした。なので私はこれから、メロスのような「信頼に報いる」事が出来るような人間になろうと決意をしました。誰かに心から信頼され、その信頼に対してふさわしい行動が示せるような、そんな人間に。

そして、「走れメロス」は私に、もう一つ大切な事を教えてくれました。それは、「目標に向かって走ることの大切さ」です。メロスは、「必ず三日のうちに王のもとへ帰って来る」という目標を成し遂げる為、数々の困難に屈せず立ち向かい、最終的に目標を達成し、親友との再会を果たすことに成功しました。こうして成し遂げられたのは、その目標に対しての努力や情熱、そして諦めないという強い気持ちがあったんだろうなと思い、メロスは本当に諦めが悪く、正義感の強い人間だったんだなと、とても感動しました。「諦めが悪い」というメロスの強い一面を見て、ふと部活で辛いと感じていた時を思い出しました。

中学に入って間もない時、私はバレーボール部に入りました。入ろうとしていた時、親に「厳しいよ?」と言われましたが、決めた事は変えたくないので、「大丈夫」と入部しました。部活はすごく楽しくて、時間があっという間に過ぎてしまうくらい熱中していました。でも、ある時になかなか上達しないのが悩みになり、部活が辛く感じて、「行きたくない」と感じるようになりました。その事をハートフル面談の時に打ち明けたら、「支えてくれている人の事を思い出すと良い」と言われて、部活を応援してくれる親、部活を共に頑張っている仲間を思い出し、同時に部活に入ろうと決めた時のワクワクした気持ちも思い出して、「一度決めたら変えないで努力しよう」という決意をする事が出来ました。そう考えた日から、また入部した頃の楽しかった気持ちが戻ってきて、前より元気ややる気が出てきたので、声もうまく出るようになって、笑える回数も増えて、辛かった分、幸せになれたような気がしました。

メロスの諦めが悪い一面を見て、改めて、目標に向かって走るという事は大事なんだなと振り返る事ができました。そして、いつも支えてもらっている人のお陰で走り続ける事が出来ている、という大切な事も思い出せました。これからも、「目標に対して走り続ける」という事を続けていきたいと思います。

「走れメロス」は、私のこれから歩んでいく人生の為に必要不可欠な事を教えて くれた、かけがえのない本です。これからは、メロスを人生の目標として、正義感 あふれる人になりたいです。